

当別町では、将来を見据えた当別町の地域医療の方向性を議論するため、「当別町の地域医療のあり方検討会議」を設置し、6月29日に第1回目の会議を開催しました。



当別町地域医療の 今後のあり方を 検討しています

■ 問合せ

保健福祉課健康推進係 (☎ 23 - 4044)



■ 会議設置までの経過報告

堀江病院が閉院されることを伝えられてから検討会議を設置するまでの、町の主な取り組みについてお知らせします。

平成 29 年 11 月

- ・ 堀江院長より、翌年3月末をもって病院の閉院が伝えられる。
- ・ 北海道医療大学に対し、町内医療体制への支援要請を行う。

平成 29 年 12 月

- ・ 堀江院長へ病床の町内確保の要請を行い、今後の町内医療体制の情報交換を行う。

平成 29 年 12 月～平成 30 年 2 月

- ・ 新たな救急当番医体制の協議を、町内内科系医療機関と行う。

平成 30 年 1 月～2 月

- ・ 江別医師会・江別市・札幌市に、町民の町外救急医療機関の利用に対する協力を要請する。

平成 30 年 2 月～4 月

- ・ 札幌市副市長、江別医師会会長、北海道医師会副会長と面談し、地域医療体制の情報交換を行う。

平成 30 年 3 月 26 日、27 日

- ・ 住民説明会を開催し、意見交換を行う。

■ 病床について

平成 30 年 5 月 23 日

- ・ 堀江院長より、堀江病院所有の58床が町内に残らない旨の説明を受ける。

■ 第1回検討会議等の内容

町では、将来を見据えた地域医療体制の確立に向けた方策を形づくるため、町内診療所、介護施設、訪問看護ステーション、北海道医療大学などの医療、介護関係者や町民代表者等19人からなる「当別町の地域医療のあり方検討会議」を設置し、今後の当別町の医療体制について検討していきます。

第1回会議の冒頭では、宮司町長から「国や道の地域医療構想で市町村が担う基本施策には『在宅医療体制の構築』がある。その構築に向けては『かかりつけ医』、『訪問診療』の充実と、医療と介護の連携体制が必須であることから、これらを模索して欲しい」と伝えられ、その後、検討会議の座長には北海道医療大学地域連携推進センター長の坂野氏が選出されました。

この会議での検討事項は、次の3点であることが了承されました。

- ① 町内に必要な医療
- ② 医療と介護の連携に必要なこと
- ③ 初期救急医療の維持に必要なこと

町からは地域医療の現状として、医療機関の状況や町民疾病状況、医療受療動向等を報告しました。委員からは、「地域医療に対する町民の声としてどのような意見があるのかを示してほしい」などの意見が出されました。

本検討会議での協議内容は、町のホームページでお知らせしていきます。